

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人豊橋文化振興財団	
施 設 名	穂の国とよはし芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業	
内 定 額 (総 額)	2,773	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,773 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

1. 事業概要

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	若手音楽家育成事業	5月31日～ 令和6年3月19日 実施回数：9回	SIGNAL、石塚和基、濱田紗治伽、MuSA、 千賀さゆり&安成紅音リートデュオ、 高柳鞠子、ほか合計8組	目標値	1,073 (出演者：20 観客：1,053)
		穂の国とよはし芸術 劇場アトスペース、 主ホール		実績値	1,365 (出演者：17 観客：1,348)
2	ワークショップファシリ テーター養成講座	6月17日～ 令和6年2月25日 実施回数：24回	講師：柏木陽、すずきこーた、吉野さ つき	目標値	188
		穂の国とよはし芸術 劇場		実績値	255
3	演劇・舞踊ワークショッ プ&レクチャー	5月20日～ 令和6年2月11日 実施回数：17回	講師：吉田小夏、木ノ下裕一、上村 聡史、扇田拓也、平田満、長田育恵、 山田佳奈 ほか 合計15名	目標値	188
		穂の国とよはし芸術 劇場		実績値	381

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>穂の国とよはし芸術劇場が掲げる5つのミッションと4つのビジョンを軸に、毎年成果と課題を見つめ直し、事業計画を立案、実施している。</p> <p>令和5年度の助成金要望時には、公演事業（8事業）人材養成事業（3事業）、普及啓発事業（3事業）にて申請を行ったが、公演事業と普及啓発事業が不採択となり、人材養成事業のみの採択となった。</p> <p>令和5年度、人材養成事業として実施した「若手音楽家育成事業」、「ワークショップファシリテーター養成講座」は、開館二年目から継続して実施しており、地域における舞台芸術を支える人材の育成に寄与している。また、「演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー」では、公演鑑賞とは異なる角度から舞台芸術の魅力を知る機会を提供し、市民の舞台芸術に対する関心を高め、新たな観客・来場者の掘り起こしに取り組んだ。</p> <p>3つの事業すべてで目標としていた参加人数を越えたとともに、実施回数も当初予定回数より多く実施することができた。ただし、「演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー」では目標の一つとして、「募集定員の70%以上の人数を集める。」を設定したが、僅かに目標に達しなかった（69.5%）。これは対象事業のうち、2事業の参加者数が多くなることを想定して、通常定員50名の会場で行う内容ではあるが、大きめの会場で定員100名として実施して、2回で定員200名のところ合計119名59.5%の参加者となったことが影響したものである。このため定員に対する参加者割合としては目標に到達しなかったが、人数としては大幅に達成している。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>【文化的意義】</p> <p>3つの助成対象事業はすべて継続して実施しており、この事業に関わる参加者は豊橋市、東三河地区に限らず、愛知県内をはじめ、他県にまで広がっている。3つの事業を通して、日本における舞台芸術を支える人材育成に寄与したと考える。また、当該年度以降も参加者が劇場の様々な取り組みに積極的に関わるような仕組みも作っており、将来的に地域における舞台芸術を支える人材育成の取り組みとして有意義だったと考える。</p> <p>【社会的意義】</p> <p>助成対象事業を通して実現すべき当劇場の社会的役割は、舞台芸術に関わる専門人材の育成とともに、舞台芸術に興味関心を持つ地域住民の裾野拡大にあると考える。「若手音楽家育成事業」「ワークショップファシリテーター養成講座」では出演者・受講生として専門人材を育成している。そして上記2事業の公開型イベントの観客及び「演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー」の受講生は舞台芸術に気軽に参加できるきっかけを提供することで、舞台芸術に興味を持つ人の裾野拡大に寄与している。</p> <p>【経済的意義】</p> <p>「若手音楽家育成事業」では、観客がワンコイン(500円)で上質な音楽を気軽に楽しめるプログラムとして、地域住民を中心に多くの観客を集めており、今年度は当初計画より295名増となる観客が来場した。経済的負荷が少ないコンサートを継続的に実施することで、地域住民の生活に潤いをもたらした。</p> <p>以上3点の結果から、助成に対する文化的、社会的、経済的意義は継続していると認められる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【目標1】若手音楽家育成事業にて、若手音楽家を毎年3組以上選考し、コンサートを実施する。

指標：若手音楽家育成事業の「ワンコインコンサート」での出演数から目標値を設定。

実績：令和5年度のオーディションにより出演した組数：3組（達成）

【目標2】当館が主催する小学校・中学校・特別支援学校で実施するアウトリーチワークショップにおいて、ワークショップファシリテーター養成講座の受講生及び過去の修了生が、コーディネーター・アシスタント・インターンとして年間5名以上が参加する。

指標：ワークショップファシリテーター養成講座の参加者（前期・後期合計28名程度）のうち、20%の参加率を目標値に設定。

実績：令和5年度の小学校・中学校・特別支援学校で実施するアウトリーチワークショップにおける、コーディネーター・アシスタント・インターンとしての参加者数：5名

令和5年度のワークショップファシリテーター養成講座の参加者数の合計は17名であり、指標の根拠である20%に当てはめると目標値は3名になるため、割合的にも目標は達成している。（達成）

【目標3】演劇・舞踊ワークショップ&レクチャーの一般参加型事業において、募集定員の70%以上の人数を集める。

指標：過去の演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー事業の募集定員に対する参加者申込割合から目標値を設定。

実績：令和5年度の実施した演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー事業の募集定員に対する参加割合の平均：69.5%（わずかに達成しなかった）

目標1、2は目標値を達成した。舞台芸術に関わる人材育成に大いに寄与したと考える。

目標3は、わずかに目標に達成しなかった。この要因としては、これまで最大50名定員の会場で実施することが多かった講座・レクチャー事業の参加者が年々増加しており、会場を大きくし、定員を100名に拡大したことが一因である。このことで定員における参加率は下がったが、演劇・舞踊ワークショップ&レクチャーの交付申請書提出時の目標値：188人を大きく上回る実績値：381人が参加した。人数としては目標値を超えているため、視点を変えると目標を達成したということもできると考えている。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和5年度の事業については、計画通りに進めることができた。

人材養成事業1「若手音楽家育成事業」

助成金交付要望書提出時には未定であった当該年度に実施するオーディションで選ばれる音楽家のコンサートについて、要望書提出時点では令和5年10月～令和6年3月としていたが、選考後の調整の結果、令和6年1月～3月にコンサートを実施した。音楽家と劇場のスケジュール調整の結果であるが、このことによる周知や準備等における不都合はなく当初の予定通りに計画を進めることができた。

人材養成事業3「演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー」

講師として、交付要望書提出時点に記載していた人物から4名を取り下げ、8名を追加した。理由としては、事業を計画・実施する中で、本助成金対象事業外で実施することに変更したもの、または内容は変えずに講師を変更したためであるが、当初計画期間の範囲内で実施した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

交付要望書の支出予定額を100%として、実績報告時の支出額は81.7%となり、18.3%の減で実施できた。そのうえで、当初の計画通りに実施することができた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

穂の国とよはし芸術劇場では、豊橋市をはじめとする東三河地域の市民のための演劇・舞踊・音楽等の芸術文化の振興と芸術文化を活用した市民交流と創造活動の活性化を図るため、文化芸術交流施設として平成 25 年 4 月に開館した。開館以降、劇場専属スタッフとして芸術文化プロデューサーやテクニカルマネージャーを筆頭に事業制作部・舞台技術部の両輪で専門スタッフを配置するとともに、芸術監督として、演劇・映像を中心に第一線で活躍するアーティストを起用し、劇場が一体となって地域の文化拠点としての事業を計画・実施している。

◎芸術監督

桑原裕子（劇作家・演出家・俳優・劇団 KAKUTA 主宰・平成 30 年 4 月より「芸術文化アドバイザー」就任。令和 6 年 4 月より「芸術監督」に名称変更）

劇場の方向性や事業等について、芸術文化プロデューサーやスタッフらとともに、計画・実施している。桑原芸術監督が作・演出を務め、当館プロデュース公演として上演した演劇公演「荒れ野」（平成 29 年 11 月～12 月）は、第 5 回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞並びに第 70 回読売文学賞戯曲・シナリオ賞を受賞した。令和 5 年 11 月～12 月にかけて、桑原芸術監督作・演出による新作プロデュース公演「たわごと」を上演。本作は豊橋だけでなく、東京（東京芸術劇場）、京都（ロームシアター京都）、岡山（岡山芸術創造劇場）でも上演された。このように芸術監督による新作演劇公演を劇場プロデュースで企画制作・上演することで、豊橋から国内に向けて、地方から創造し、発信する劇場としての存在を広めることに寄与している。

◎若手音楽家育成事業

本事業は 2014 年度から継続して実施しており、令和 5 年度で 10 年目を迎えた。これまで 36 組 78 名の若手音楽家がオーディションにより選出され、当館の 266 名定員のホールでのコンサートを開催している。また、令和 5 年度は当事業で実施したコンサートの観客が目標値 1,053 人に対し、実績値 1,365 人となり、目標の 129.6%となった。このように、地域で活動する若手音楽家への活躍の場の提供することによる人材育成と、地域住民を中心とする音楽ファンらが気軽に劇場や音楽に親しめる機会を提供し、地域の文化拠点としての役割を果たし、効果的な結果につながっていると考える。

◎演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー

演劇・舞踊の演出家や劇作家、振付家、スタッフらを講師として招き、ワークショップやレクチャーを実施する「演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー」は、令和 5 年度は 17 回の事業を実施し、参加者は目標値 188 人に対し、実績値 381 人となり、目標の 200%以上となった。本事業では、市民の舞台芸術に対する関心を高め、舞台芸術を自ら実践する人材を養成するとともに、公演鑑賞とは異なる角度から舞台芸術の魅力を知る契機とし、新たな観客・来場者の掘り起こしを行っている。劇場を訪れる地域住民が、公演鑑賞だけでなく、ワークショップやレクチャーに参加する機会を提供することで、舞台芸術や劇場に興味関心や理解を深めることに寄与でき、地域の文化拠点としての劇場が存在しているといえる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

◎若手音楽家育成事業

令和5年度のオーディションにより選ばれた音楽家グループ「デュオ・ミスコラーレ」は、本事業へのオーディション申し込みをきっかけにデュオ活動を開始したグループである。オーディション合格後、第1回スペシャルヴェニユ国際音楽コンクール Winner of 2024 を受賞し、令和6年10月には同賞の受賞者に与えられる資格として、ニューヨークカーネギーホールでの入賞者コンサートへ出演を予定している。

また、同じく令和5年度のオーディションにより選ばれた音楽家グループ「Famme Fatale」によるコンサートは、開催前から非常に高い注目が集まり、公演の1ヵ月以上前にチケットが完売するというこれまでにない状況となった。来場した観客のアンケートからは、「500円（ワンコイン）では安すぎる」「会場をもっと広い主ホール（771席）でコンサートを開いてほしい」といった声が寄せられた。

以上の結果から、「デュオ・ミスコラーレ」は当館でのオーディションへの参加をきっかけに国際的な活躍へと飛躍的な展開をみせており、今後の活躍に期待すると共に、豊橋市を中心とする観客が優れたコンサートに触れることで、地域の文化芸術の発展に寄与しているといえる。

また、「Famme Fatale」については、令和5年度のチケット販売の状況や観客からの声を踏まえ、令和6年度のコンサートは1日2回実施することとし、音楽家にとっては演奏機会の拡充となり、また観客にとっては、前年度鑑賞できなかった層も鑑賞できる機会の提供につながったと考える。

◎ワークショップファシリテーター養成講座

一般財団法人地域創造が令和5年度に実施した調査研究「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果に関する調査研究」において、全国の公立文化施設の中で、アウトリーチやワークショップを継続実施し、先進的な取り組みを行っている6か所の公共劇場を対象に実施した調査研究の中で、その1館として穂の国とよはし芸術劇場が選出された。調査研究の内容としては、当館が取り組んでいるアウトリーチ事業と、特徴的な活動として「ワークショップファシリテーター養成講座」が取り上げられ、その実績や受講生らへのヒアリング調査が行われ、その報告が地域創造発行の冊子や地域創造のホームページで公開されている。

この調査研究の内容が全国に向けて発信されることで、当劇場の取組がより多くの人を知るところとなり、同様の取組をやってみたいと考える劇場等の参考資料として大いに活用できることが期待される。このように、豊橋の取組の全国的なアピールと、全国的な文化芸術の発展に寄与していると考えられる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

◎事業運営

穂の国とよはし芸術劇場は平成 25 年の開館以来、事業運営を「公益財団法人豊橋文化振興財団」、施設維持管理を「PFI 事業者による管理(15 年契約)」とする併用方式を用いている。当館を運営する(公財)豊橋文化振興財団は、設置自治体である豊橋市からの指定管理のもと管理運営を行っており、3 期目も令和 3 年 4 月から 5 年間の指定管理者としての指名を受けている。

◎経営戦略

・劇場の活用方法の提案

開館以降実施する公演事業を始め、優れた舞台芸術作品の鑑賞機会の提供を通じて、観客層の拡充を図っている。来場者はコロナ禍により一時的に減少していたが、劇場を活用した参加型のワークショップやレクチャー、市民や高校生が参加する演劇作品への参加者は回復傾向にあり、参加型・知的好奇心をさらに高める事業に対するニーズは高まっている。このように、鑑賞事業・参加型事業の双方に期待する市民に向け、バランスよく事業を展開することで、市民に向けて劇場の活用方法を提案し、活気あふれる劇場としての魅力を創出する。

・財政基盤の強化

特定費用準備資金(地域還元人材育成事業積立金)を用意し、将来の地域を担う人材育成事業を長期的・継続的に実践するための財源を確保している。広報誌への広告協賛や、財団維持会員(年会費 3,000 円~20,000 円)・特別賛助会員(一口 50,000 円/年間)制度を設け、個人や文化団体、地元企業からのファンドレイジングを行っている。地元企業から「特別協賛」として、年間 3 公演を対象に 200 万円協賛金を獲得した。

◎人事戦略

事業制作部と舞台技術部職員は、雇用期間に応じて雇用形態の転換を行っており、初年度に嘱託職員、2 年目から 4 年間は任期付き職員に転換。勤続 6 年目以降は無期雇用に転換している。令和 5 年度は以下の通り。

- ・事業制作部(無期雇用：9 名、任期付き：2 名、嘱託：1 名、アルバイト：6 名)
- ・舞台技術部(無期雇用：2 名、任期付き：2 名、委託業者：3 名)
- ・総務・経理部(期間を定めない雇用：3 名、嘱託：3 名)

◎他館、劇団等の創造団体とのネットワーク構築

開館以降、全国の公立劇場とのネットワーク構築に努めており、新国立劇場とは連携協定を締結している。また、今年 5 年度はコロナ禍により地方公演が難しかった小劇場演劇作品やダンス公演に力をいれた。感染症の影響で、ここ数年活動を停滞・縮小せざるを得ない状況に置かれている団体に上演機会を提供し、今後も継続した創作・上演活動につなげることを期待している。集客面では苦勞する部分もあるが、地方の劇場として上演機会を設けることは、日本全体における舞台芸術を支える環境整備として非常に重要であると考えている。

◎PDCA サイクル

当劇場では、助成の趣旨を理解し、劇場のミッションを実現する事業を計画し(P)、このことに基づき、芸術文化アドバイザーや劇場職員、アーティストが協同し事業を実施する(D)。その後、鑑賞者や参加者から回収するアンケート調査や、豊橋市内で課題となっていること等のリサーチを行い(C)、次年度以降の事業をどう発展するかを検証し、継続事業については見直しを図る(A)。このような体制を作り、持続的に発展する劇場として運営している。今後の課題としては、社会的問題である光熱水費の高騰や諸物価の高騰に対し、どのような形で健全な劇場運営ができるかという点にあると考えている。